

こころ の 健康

～思春期の心の悩みと病～

千葉県医師会 橘川 清人 医師



ルールが 守れない子ども No.2



前回、子どもが「ルールを守る力」は「(大人の) 言うことを聞く力」ではなく、「自分で決めて実行する力」であり、それは親が「見張っている」ことによってではなく、「待つこと」によって育まれるというお話をしました。そして10歳以降の子どもがルールを守れないときの対応として、4つのステップをご紹介しました。

- ①ルールが守れていない現状について「心配していること」を伝える。
- ②子どもの言い分を聞く。
- ③親の言い分を伝える。
- ④その上で目標を子どもに決めさせる。それが難しい場合には、一緒に決める。

しかし実際には、このプロセスは容易には進まないものです。子どもが目標を決められない、親の言い分に耳を傾けようとしない、子どもが自分の気持ちを表現できない、そもそも話し合いのテーブルについてもらえない…などなど。

発達障害のような問題がない場合、このようなつまずきの背景には、しばしば《「しつけ」に関して幼少の頃にとってきたスタンスを、10歳以降にも取り続けがち》ということがあります。たとえばルールを子どもに提案させるより、ついつい親が「こうしなさい」と決めてしまいがちです。

しかし、一番肝心なことは上の②と③の順番だと思います。実際には、まず親の言い分を子どもに聞かせることから始まる、あるいはそれだけで終わってしまうことが多いのです。その場合、子どもが健全に成長しているほど、むしろ逆にルールを守らないという事態が生じやすくなります。

したがって最も重要なポイントは、《まず子どもの言い分、気持ちを十分に聞き、その上で親の言い分をしっかりと伝える》ということになります。実は「子どもの言い分を十分に聞く」ということがしっかりできれば、そのあとのプロセスは不要になってしまうことも少なくありません。さらに言えば、小さい頃から「自分の言い分を聞いてもらえた子ども」は、思春期に親とぶつかり合ったときにも、「話し合う」というかたちで問題を乗り越えやすくなります。(言うまでもないことですが、子どもの「言い分を聞く」というのは「言いなりになる」とことはまったく違います。念のため)しかし、そもそも子どもはなぜルールを守れるようになるのでしょうか。

「待つこと」の意味についてこの次にお話ししたいと思います。